



2021年10月26日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ第44号

「感謝」を「がんばる」？

神戸国際大学オルガニスト 伊藤純子

大切な恩師が天に召されました。その方が頻繁に私に伝えたことは「感謝」。もうひとつの口癖は「頑張って」でした。最期にお電話で話したときも「感謝して」「頑張って」と、苦しい息で力強く私に話して下さいました。

お葬儀の後にふと、私の頭の中でつながったことがあります。「感謝」と「頑張る」には関連性があるということです。つまり「頑張らないと」「感謝することができない」という現実です。

もちろん、「なんとなく感謝」することはよくあります。どう考えても感謝したくなる事柄が自分の身に降りかかれば、感謝の念を抱くことは自然な流れです。ただ、他人から見れば「どう考えても感謝したくなる事柄」であっても、本人からすると当たり前で、改めて感謝の念が湧かない場合もあります。この場合、意識して感謝の念を持つことは、自分の視野を広げてくれます。この作業は、頑張らなくても可能かも知れません。

問題は、「どう考えても感謝なんかできない事柄」に遭遇した時です。そのような時に感謝の念を持つためには、よほど「頑張る」必要があります。自分の意識を変えるために、「頑張る」のです。もしも頑張った結果、その事柄に対する感謝の念が、ほんのわずかであっても自分の中に芽生えることができれば、あとはぐんぐんとその芽が膨らんで、自分や周りを温かく包み込むまでに、大きく成長することと思います。感謝の念は必ず、形を変えて自分にかえってきます！

一口メモ 「ああ感謝せん」

ヘンデルが作曲した歌に「ああ感謝せん」という歌があります。

「ああ感謝せん。わが神 今日まで導きませり。」という歌詞が何度も繰り返されます。

しみじみと感謝の念を抱く曲調は、オルガンだけでも美しく響きます。

音色はこちら→



- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。アーメン

病に苦しむ人のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。アーメン